

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	157 市史編さん事業	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
基本	36 歴史や文化を守り、未来へと引き継ぐ	目	16	市史編さん費
		細目	150	市史編さん事業
行革大綱の重点事項番号		細目	01	市史編さん事業
担当部課	コード 10100 名称 企画総務部総務課	担当者氏名	笠井賢治	連絡先 52 - 4380 (内線)

対象(誰を、何を)	伊賀市の歴史・文化に興味・関心をもち、ふるさと学習や郷土史研究等に取り組む市民や伊賀地域の歴史に関心をもつ市外在住の住民や研究機関等 ※対象件数		
成果(どうする)	最新の歴史学の成果を盛り込んだ『伊賀市史』を刊行することにより、当市の歴史的特色を発信し、地域の魅力をアピールすることができる。さらに、編さんの過程で収集した資料を整理・保管し、次世代へ伝えると同時に市内外からの歴史に関する様々な照会に対し、適切に対応することができる。		
根拠法令・要綱等	伊賀市史編さん条例・伊賀市史編さん要綱		
開始年度	平成 16 年度	関連事業	三重県史編さん事業
終了年度	平成 28 年度		
H22 事業内容	●『伊賀市史 第1巻 通史編 古代・中世』を刊行した。●『伊賀市史 第5巻 資料編 近世』の原稿を概ね揃えることができた。●編さん事業を推進するための各種会議(市史編さん委員会2回、編集委員会5回、各時代の専門部会のべ46回)を開催し、編さんの基本方針や計画、編集方法等を検討した。●市史編さん資料の収集作業(写真撮影とそれに伴う資料目録作成)、伊賀地域関係論文の収集等を行った。●事業の普及・啓発活動として、『広報いが』に「市史編さんだより」を4回掲載した。		
社会情勢の変化等			

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)	
1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)	
1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
『伊賀市史』の発刊	巻	目標	1	1	1	0
		実績	1	1		
資料の調査・収集	点	目標	5000	3000		
		実績	2850	1000	1000	1000

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
『伊賀市史』各編の発刊巻数	%	『伊賀市史』全7巻を刊行計画に則り、発刊していく達成(累計)割合	目標	28	43	57	57
			実績	28	43		
『伊賀市史』各編などの有償・無償配布数	冊	『伊賀市史』各編などの有償・無償配布の冊数をもって事業成果の達成度とする。	目標	200	700	700	700
			実績	119	817		

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
		25,022	27,220	21,521	20,063
Aの財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他	358	1,564	1,500	1,200
	一般財源	24,664	25,656	20,021	18,863
	事業投入人件費(B)	1.8人	12,960	1.8人	12,960
	フルコスト(A)+(B)	37,982	40,180	34,481	33,023

必要性	判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
必要性	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業		
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合は、市民生活への影響が大きい事業			
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】			
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○	・事業開始当初と比較して、事業に対する認識が広まり、市内外から歴史に関する照会だけでなく各種資料の照会が増加している。
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○	
達成度	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。		【計画に遅れが生じている場合、改善策】 資料収集中心の段階から、書籍の発刊作業へと編さん作業の内容が移行しつつあることと、人員不足から資料収集の点数が目減りを下回った。活動指標の内容の再検討と、効率的な
	予算の繰越の有無 無		
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。		
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。		
	【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。	○	
	全体コストにおける負担構成は適正である。		
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況	H21年度からH23年度までは、毎年市史を刊行する計画になっており、当該年度の編集・校正作業と次年度以降に刊行するための資料整理等が重なり、業務が集中するため、編集委員会で進捗状況を確認し、各部会を適宜開催して編さん作業を行い、計画的に市史発刊を行う。
改善策	【状況】 計画のとおり進んでいる
昨年度の取組状況	【詳細】 編集委員会で進捗状況を確認するとともに、各部会を適宜開催して編さん作業を行い、計画的に市史発刊を行う。具体的には、編集委員会を5回開催し、各部会の進捗を確認し、第1巻 通史編 古代・中世については27回の部会を開催し、計画どおり発刊することができた。また、H23年度刊行予定の第5巻 資料編 近世については、15回の部会を開催し、原稿を概ね揃えることができた。

担当課長氏名	澤田 洋子
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 平成17年度から平成27年度の間に伊賀市史全7巻を刊行する計画により、平成19年度、平成21年度、平成22年度にそれぞれ1巻ずつ発刊し、今年度は第5巻資料編近世を刊行予定である。市史編さん事業費の大半は伊賀市歴史研究会への専門調査研究委託料及び市史発刊の印刷費である。伊賀市歴史研究会の人員費については、単価設定を低く抑えており、経費削減は困難な状況であるが、作業の効率化を図ることで経費削減に努める。また、伊賀市史をはじめ既刊の書籍の販売促進に努め、歳入の増加を図る。
現時点における課題、その他	平成28年度までの編さん事業計画により事務を進めているが、編集作業と資料の収集作業が重なり、業務が集中する。市内外から歴史に関する問い合わせや、古い行政情報の照会もあるが、なかなか対応できる体制がとれない。専門委員・調査員等の報酬をこれ以上下げることが難しい。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	編集委員会を3ヶ月に1回を目処に開催し、編さん作業の進捗状況を確認しあう。各部会を開催して編さん作業を行い、本年度刊行予定の第5巻を発刊する。市史編さんに携わる職員が情報を共有する。